

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 3月2日は、低気圧が東シナ海へ進み、前線が西日本付近へのびる。
- 3日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東進する。
- 4日は、低気圧が日本の東へ進み、5日にかけて日本付近は北から高気圧に覆われる。
- 6日は、低気圧が日本海西部へ進み、前線が西日本付近へのびる。

<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

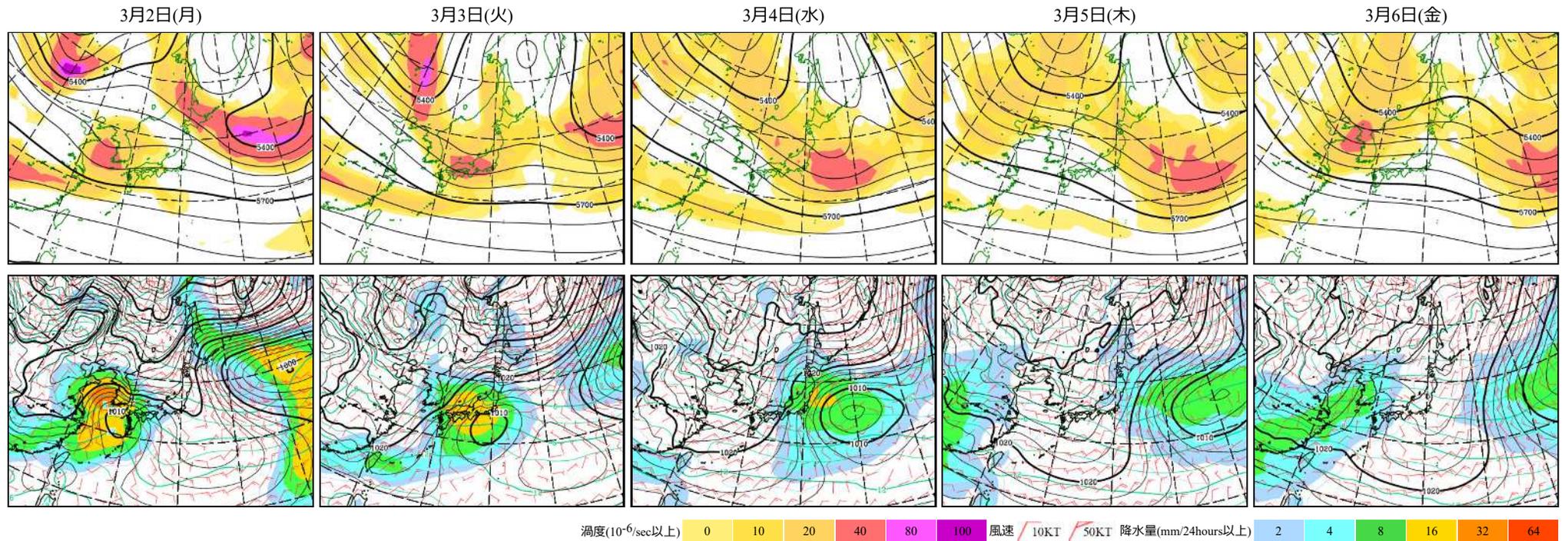
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

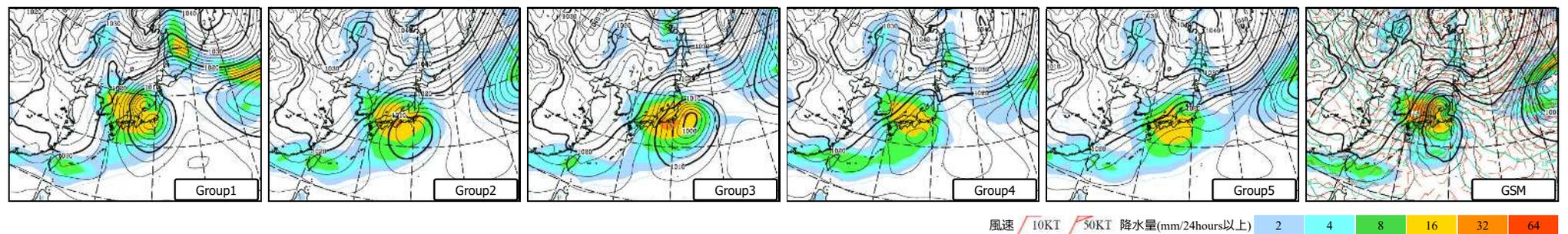


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、3月2日と6日は晴れる所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、5日は晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月3日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、4日は北日本付近を通過する気圧の谷が明瞭となり、北日本は降水確率が大きくなった所がある。各モデルに比べると、初期値変わりは比較的小さい。
- 3日から4日の降水域は、各モデルの予想のばらつきが大きく、それぞれの初期値変わりも大きいことから、不確実性が大きい。
- スプレッドは、期間の後半は大きく、5400mの特定高度線のばらつきが非常に大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。